



### 明らかになりつつある平安時代の飛騨

平成14年度から18年度にかけて発掘調査を行った野内遺跡(高山市上切町)では、集落跡や水田跡から18万点もの遺物が出土しました。特に数が多いのは平安時代の焼き物です。整理作業が進み、当時の飛騨の人々の暮らしぶりが具体的に分かってきました。今回は、食事の際に使われた器、すなわち碗や皿といった食器について明らかになったことを紹介します。

### 基本は須恵器

野内遺跡では、実は焼き物だけでなく木器も多数出土しています。ところが、木製の容器や箸などはみられるものの、碗や皿はごくわずかしか見当たりません。したがって、当時食器として使われたのは主に焼き物だったと考えています。

出土した多種多様な焼き物のうち、最も多いのは須恵器です。須恵器は窯で焼かれた硬い焼き物です。一般に青灰色か灰色であることが多いのですが、野内遺跡では赤黒い色のものも少なくありません。器の形は何通りもあり、最も多いのは高台を持たない平底の碗です。ちょうど片手に収まるくらいの大きさです。

須恵器は古墳時代から平安時代まで全国各地で生産され、広く使われました。飛騨もその例外ではなく、野内遺跡の西方約1kmにある「赤保木古窯跡」などで須恵器を焼いたことが分かっています。野内遺跡の須恵器のほとんどは、地元の窯で焼かれた製品とみてよいでしょう。

### 意外に多い灰釉陶器

灰釉陶器は、須恵器より洗練された白色の焼き物です。植物の灰を原料とした透明な釉薬がかかっていることが多いことから、こう呼ばれています。平安時代に尾張・美濃を中心とした東海地方で大量生産され、遠方まで運ばれて須恵器とともに使われました。



▲須恵器(左)と灰釉陶器

野内遺跡の焼き物を見渡してみても、まず気付くのは、灰釉陶器の出土量が非常に多く、しかも美濃地方の遺跡で一般的な白色の良品とは印象の異なる個体が目につくことです。平安時代に限れば、須恵器の5割に迫る比率で出土しているようです。これは、大生産地をひかえる尾張や美濃などの遺跡を除けば、かなりの高率と言ってよい値です。

見過ごされがちなのですが、飛騨でも灰釉陶器の生産は行われています。野内遺跡西方約0.5kmの「よしま古窯跡」をはじめ、周辺では窯跡がいくつか見つかっています。野内遺跡出土の灰釉陶器の多くは、それら在地窯の製品と考えられます。大生産地に依存せず、需要の大部分を地元でまかなうことにより、灰釉陶器を安定して使用できる環境を整え得たとみることができます。

### 貴重品だった緑釉陶器

平安時代の釉薬をかけた焼き物には、もう一つ、緑釉陶器というものがあります。これは緑色の釉薬をかけた美しい焼き物です。灰釉陶器のように大量生産されることはなかったため、地方の集落ではほとんど流通しな



▲緑釉陶器

かったとされています。

野内遺跡発掘調査での目立った成果の一つとして、飛騨で初めてまとまった量の緑釉陶器が出土したことが挙げられます。とはいえ、出土点数は20点余りにすぎず、須恵器や灰釉陶器とは比べものになりません。食器というより、宝物として大切に扱われたことでしょう。

### 飛騨はやはり東海地方?

飛騨の北隣りの北陸地方では、この時代、赤褐色の素焼き土器である土師器の碗や皿が食器として普及します。にもかかわらず、野内遺跡では土師器の食器はほとんど見かけません。飛騨では須恵器と灰釉陶器の生産が順調だったため、そのような差が生じたのでしょうか。

食器の大半を須恵器と灰釉陶器が占めるという様相は、尾張や美濃に似ています。食器に関する限り、平安時代の飛騨は東海文化圏に属していたと言えそうです。

# あゆみ

## 平成20年度の組織(平成20年4月現在)

### 財団役員

理事長	広瀬 利和
副理事長	伊藤 克己 吉田 康雄
常務理事	梅村 恒男(兼文化財保護センター所長)
理事	宮田 敏光 坂本 由之 篠田 薫 篠田 英男 杉山 博文 鈴木 誠 竹内ゆみ子 玉井 博祐 所 鳳弘 八賀 晋 益川 浩一 真鍋みさを 丸山幸太郎 吉田 豊 渡辺 信行
監事	岩田 重信 山田 賢二



### 文化財保護センター職員

常務理事兼所長 梅村 恒男

#### 経営部

経営課	課長	加藤 美好
	主査	高井 和子 山崎 護朗
	主任	高澤 信宏
	事務専門職	古川 裕子

#### 調査部

調査第一課	部長	北村 厚史
	課長	成瀬 正勝
	課長補佐	春日井 恒 河瀬 実浩 吉田 靖 野々田光則 香田 明彦 鷺見 博史
調査第二課	課長	谷村 和男
	管理監	林 直樹
	課長補佐	藤田 英博 石井 照久 北村 昌弘 小野木 学
	学芸主事	三島 誠 柏木 賢一
	事務専門職	山田 祐子
飛騨出張所	飛騨出張所長	森下 茂司
	管理監	相馬 重典
	課長補佐	小淵 忠司 野村 和也
	学芸主事	稲垣 洋志
	事務専門職	村田 明美

## センター年間行事予定

### 教育普及事業予定

- 7月12日(土) 岐阜県発掘調査報告会  
(みのかも文化の森・美濃加茂市)13:00~
- 7月22日(火) 夏休みキッズ考古学—縄文土器づくり—  
23日(水) (三田洞事務所)
- 7月24日(木) タイムスリップ探検隊・飛騨—親子で発掘体験—  
三枝城跡(高山市)
- 7月31日(木) タイムスリップ探検隊・美濃—親子で発掘体験—  
岩田西遺跡(岐阜市)
- 8月20日(水) 夏休みキッズ考古学—野焼き—  
(三田洞事務所)(雨天順延)
- 11月18日(火) 発掘速報展(岐阜県博物館・関市)
- ~1月12日(月) ※11月29日(土)講演

### 現地説明会

- 7月26日(土) 広畑野口遺跡(各務原市)
- 10月 4日(土) 三枝城跡(高山市)
- 10月18日(土) 下切遺跡(下呂市)
- 11月 1日(土) 岩田西遺跡(岐阜市)
- 11月15日(土) 荒尾南遺跡(大垣市)

### 展示予定

- ◎県民ふれあい会館2階「生涯学習センター展示コーナー」  
(4月~6月、10月~12月)
- ◎ハートフルスクエアG「キュービックギャラリー」  
(JR岐阜駅2階 平成21年2月)
- ◎県政資料館(山県市 4月~平成21年3月)
- ※3つの施設で定期的に展示します。ぜひご覧ください。

## センター日誌

- 3月31日(月) 職員転出5名
- 4月 1日(火) 職員転入8名
- 4月14日(月) 整理作業開始(三田洞事務所・飛騨出張所)
- 4月25日(金) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会ブロック連絡会(長野県)
- 5月 1日(木) 岩田西遺跡発掘調査開始
- 5月 7日(水) 荒尾南遺跡・下切遺跡発掘調査開始
- 5月12日(月) 広畑野口遺跡発掘調査開始
- 5月13日(火) 三枝城跡発掘調査開始
- 5月21日(水) 高山市立国府小学校1年生90名飛騨出張所見学
- 5月23日(金) 高山市立三枝小学校3年生31名三枝城跡見学

## あとがき

今年度は、県内5か所で発掘調査を行っています。  
このうち高山市の三枝城跡では、発掘作業の合間に、ふと視線を遠方に移すと乗鞍岳や御嶽と共に飛騨山脈の雄々しい姿が飛び込んできます。そんなときには、ここに山城を築いた人々の「いい眺めやろっ」という声が聞こえてくるようで、ほっとしてまた作業に向かっていくことができます。  
今年度も新たな発見に期待を寄せながら、地道な発掘や整理作業に取り組んでいます。  
発掘速報展やミニ展示のように、皆さんに調査の足跡を見ていただき、悠久の歴史の流れに触れていただく機会を多くつくることを考えています。また、現地説明会、タイムスリップ探検隊、夏休みキッズ考古学など、体験や見学を通して考古学を実感していただく行事も計画しています。  
多くの方が参加され、考古学の魅力を感じていただければ幸いです。



# センター 掲示板

## 親子で発掘・整理体験! タイムスリップ探検隊 参加者募集中

対象：県内小学校5・6年生とその保護者  
参加費：保険料として50円  
定員：50名程度



▲H19.飛騨・集合写真



▲H19.美濃・発掘体験

### 飛騨地区

日時：平成20年7月24日(木)午前9時～午後4時 雨天順延(7月25日まで)  
場所：三枝城跡(高山市上切町)・高山市風土記の丘学習センター(高山市赤保木町)  
申込先：飛騨出張所 TEL.0577-72-4784 FAX.0577-72-4690

### 美濃地区

日時：平成20年7月31日(木)午前9時～午後4時 雨天順延(8月1日まで)  
場所：岩田西遺跡(岐阜市岩田西)  
申込先：三田洞事務所 TEL.058-237-8553 FAX.058-237-8551

### 応募方法

応募者全員の氏名(児童・保護者)・住所・電話番号・学校名・学年(年齢)・性別・希望地区(飛騨、美濃)を明記の上、葉書・電話・FAX・e-mailのいずれかで、飛騨・美濃それぞれの申込先へお申し込みください。応募締切は、飛騨が7月11日(金)、美濃が7月14日(月)です。

## 夏休みキッズ考古学 参加者募集中

対象：県内小学校5・6年生・中学校1年生と、その保護者  
参加費：150円  
定員：先着24名  
日時：7月22日(火)・23日(水)、8月20日(水)  
場所：文化財保護センター三田洞事務所



▲H19.野焼きの様子

### 応募方法

電話のみの受付です。6月30日(月)～7月4日(金)午前9時～午後4時まで TEL.058-237-8553

## 「出前授業」「職場体験」「発掘体験」「見学」等のご希望にお応えします

文化財保護センターでは、子どもたちの「本物の土器を見てみたい、触ってみたい」「発掘調査を体験してみたい」「職場体験をさせてほしい」という声や、一般の皆さんの「考古学についてわかりやすく教えてほしい」という声に常にお応えしています。ご希望がありましたら、当センターまでお気軽にご相談ください。



飛騨市立古川中学校1年生出前授業 (H19.12)



本美市立糸糸員中学校3年生出前授業 (H19.11)



高山市立国府中学校2年生職場体験 (与島B地点遺跡) (H19.10)



高山市立国府小学校1年生展示見学 (飛騨出張所) (H19.5)

お申し込みいただいた個人に関する情報は、  
申し込み後の連絡にのみ利用させていただきます。

**Center News**  
ホームページ  
<http://www.g-kyoubun.or.jp/maibun/>

**三田洞事務所** 〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1  
TEL. 058-237-8550 (代) FAX. 058-237-8551  
e-mail: bunzai@g-kyoubun.or.jp

**飛騨出張所** 〒509-4122 高山市国府町名張字峠1425-1  
TEL. 0577-72-4784 (代) FAX. 0577-72-4690  
e-mail: bunzai-hida@g-kyoubun.or.jp